

2022 年度

事業報告

自 2022 年 4 月 1 日

至 2023 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝 2500 番地

目 次

【事業報告】

「事業の概況」	2
「事業別の状況」	
◆チャレンジ支援事業（公1）	
1. 助成事業(スポーツチャレンジ助成)	3
2. 表彰事業(スポーツチャレンジ賞)	5
3. 普及啓発のための情報発信	6
◆スポーツ体験促進事業（公2）	
1. 各種体験事業	
(1) ジュニアヨットスクール葉山(セーリング体験)	7
(2) セーリング競技会(セーリング競技体験)	8
(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)	9
(4) 教材の提供(体験活動に必要な教材の提供)	10
(5) 体験型スポーツ教室/イベント	11
2. 調査研究	12
3. 普及啓発のための情報発信	13
【事務報告】	
1. 理事会・評議員選定委員会・評議員会	14

「事業の概況」

新型コロナウイルス感染症の拡大は、今年も全世界で猛威を振るい、日本においては新たな変異株 BA5 の爆発的な感染拡大(第 7 波)となって世界で最も多くの感染者数を記録し、医療、社会経済、国民生活の全般において厳しい状況となりましたが、ここ数か月は経済活動との両立が進み、“脱コロナ”へのひかりが少し見えてきた状況となりました。

一方、昨年 3 月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻は未だ終結の糸口も見えず、政治的、経済的な世界中への大きな影響は、まだまだ継続している状況はご存知の通りです。

そのような環境下、コロナ感染症対策を継続しながらも、当財団の各事業活動においては、ほぼすべての活動において計画通りに遂行して参りました。

とりわけ法人運営では、理事会、定時評議員会を 3 年ぶりに対面で開催し、関係者が一同に会する行事での柔軟な対応が取れたことは、“脱コロナ”の第一歩と認識しております。

個別事業につきましては、チャレンジ助成事業では審査委員の協力を得て 16 期生の活動を積極的に支援するとともに、新たに 17 期生となる若く優秀なチャレンジャーを選抜しました。成果報告会の場合であるスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、本年 3 月日本青年館ホテルにおいて、4 年ぶりに対面で開催しました。

コロナ感染対策を施しながらの開催ではありましたが、ここ数年実施して参りましたリモート(又はハイブリッド)対応のイベントとは異なる、リアルならではの臨場感溢れるより有意義な成果報告会となった事は言うまでもありません。

スポーツ体験促進事業においては、年度末には第 31 回セーリング・チャレンジカップを浜名湖において 4 年ぶりに開催し、全国のジュニアセーラーが切磋琢磨しました。ジュニアヨットスクール葉山においても、年間を通して全てのカリキュラムを執行し、逞しい成長をみせる子どもたちを確認することが出来ました。

また、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」の開催も予定通り開催、自然体験を絵にする「水辺の風景画コンテスト」では、夏休みの宿題として多くの幼稚園、小学校からの応募もあり、昨年と同様に多くの体験機会の提供を実現できたと認識しております。

2022 年度は、当財団設立から 15 年(Phase I)を経て、これからの 15 年(Phase II)のスタートの年となりました。その最初の 5 年間で新中期事業方針“Value5”を掲げ、今後の様々な時代の変化に対応しながら社会的価値を高め、「YMFSらしさ」のある持続的な活動として進化を続けていくための第一歩と位置付けて活動すると共に、その事業基盤づくりとして、事業体制や定款、関連規程等の改廃などを行い、本年 1 月に内閣府の事業変更認定を得ました。これにより「チャレンジ支援」と「スポーツ体験促進」という 2 つの事業ごとに、目的・方針・運営・管理・会計を含めたシンプルで分かり易い事業体制へと再整備を行ってきました。

2023 年度の具体的な事業においては、引き続きコロナ禍の影響を注視しつつも、愚直に邁進させる年と捉えており、子どもたちなど参加者、関係者の方々の安全を最優先し、柔軟な見直し・調整を加えながら事業を運営していく所存です。

関係の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

「事業別の状況」

◆チャレンジ支援事業（公1）

本事業は、将来、スポーツ振興及びスポーツ文化の発展を担う人材にとっての重要な成長機会と言える「挑戦(チャレンジ)」に焦点をあて、助成対象者(チャレンジャー)を支援する助成事業とチャレンジを称賛し奨励する表彰事業とのシナジーを高めることにより事業の質を向上し、チャレンジすることを総合的に支援する事業として展開しております。各活動の意義・活動内容は、分かりやすくホームページや其他媒体を通じて情報公開していきます。

1. 助成事業(スポーツチャレンジ助成)

スポーツ振興及びスポーツ文化の発展において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的に、スポーツに関する技術・体力の向上、その他実践的活動、及び学術的な研究に対する助成を行います。

<2022年度(第16期)の助成実績>

分野	2022年度(第16期)	※参考 2021年度(第15期)
体験助成	12件(1,215万円)	14件(1,496万円)
研究助成	17件(1,665万円)	16件(1,469万円)
合計	29件(2,880万円)	30件(2,965万円)

※第16期生体験助成は、途中辞退2名後(2023年3月時点)の数値

<2023年度(第17期)助成対象者の募集概要>

募集期間	2022年9月1日(木)～10月31日(月)
告知方法	・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載

助成分野・区分		応募資格	助成金額/件	助成件数
体験助成	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、2010年4月1日以前生まれ(応募時、中学1年生以上)の個人および、これによって構成されるチーム	上限50万円	ジュニア・ベーシック
	ベーシック	世界選手権など国際レベルを目指す、2008年4月1日以前生まれ(応募時、中学3年生以上)の個人および、これによって構成されるチーム	上限100万円	合わせて10件程度
	アドバンスド	世界選手権など国際レベルでの実績を有する、2008年4月1日以前生まれ(応募時、中学3年生以上)の個人および、これによって構成されるチーム	上限150万円	若干名
研究助成	奨励	助成期間中、大学院博士課程(博士後期課程)に在籍中または修了した方(学位未修得者を含む)のうち、1992年4月2日以降生まれの方。	上限60万円	5件程度
	基本	助成期間中、大学や研究機関等で研究職として活動に従事する、1982年4月2日以降生まれの方 ※教授職又は教授職相当の職位の方は除きます	上限120万円	10件程度

※助成期間は、2023年4月から1年間。

<第17期審査委員会開催>

審査委員会	審査分野	日 程	会 場	審査委員
第1回 (書類審査)	体験・研究助成	2022年12月3日(土)	リモート開催	10名
第2回 (面接審査)	体験助成	2023年1月21日(土)	日本青年館ホテル	4名
	研究助成	2023年1月22日(日)		9名

<第17期応募、採択状況>

分 野	2023年度(第17期)			※参考 2022年度(第16期)		
	区 分	応募件数	採択件数	区 分	応募件数	採択件数
体験助成	ジュニア	4	3	ジュニア	3	1
	ベーシック	26	7	ベーシック	36	11
	アドバンスド	12	5	アドバンスド	14	2
	(計)	42	15	(計)	53	14
研究助成	奨 励	16	5	奨 励	22	5
	基 本	30	11	基 本	31	12
	(計)	46	16	(計)	53	17
	(合 計)	88	31	(合 計)	106	31

※参考 第16期生体験助成は、採択時の数値

<第17期助成金額(採択時)>

分 野	2023年度(第17期)	※参考 2022年度(第16期)
体験助成	15件(1,499万円)	14件(1,365万円)
研究助成	16件(1,514万円)	17件(1,665万円)
助成額合計	31件(3,013万円)	31件(3,030万円)

<第17期助成金贈呈式>

開催日	会 場	出席対象者
2023年3月25日(土) 11:00~11:45	日本青年館ホテル	第17期助成対象者、第16期生、審査委員

※第16回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催

《助成事業の一環としてのフォローアップ活動》

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、PDCA(Plan Do Check Action)を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激、気づきの機会を提供するなどフォローアップ活動のプログラムを実施しています。

(1)第16期四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出されたチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、CNS(チャレンジャーズ・ネットワーク・システム)を介して報告させ、審査委員から一人一人にアドバイスをを行いました。

(2) 第16期中間報告会の開催

3年振りの対面にて開催した中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

<2022年度(第16期)中間報告会>

日 程		会 場	チャレンジャー	審査委員
第1回	10月8日(土)	日本青年館ホテル	8名	6名
第2回	10月9日(日)		6名	8名
第3回	10月15日(土)		7名	8名
第4回	10月16日(日)		8名	9名

(3) 成果報告会および修了式について

スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、年度末の時期に現・新チャレンジャーと審査委員が一同に会して1年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野の交流を通じて多様な価値観に触れ、一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

第16回は、4年ぶりの対面方式によって開催しましたが、臨場感あふれる有意義な式典となりました。

<第16回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの概要>

日 程	会 場	議 題	会議出席者
2023年 3月25日(土) ～26日(日)	日本青年館ホテル	・第16期生成果報告会 ・異分野交流会他	・第16期生 24名 ・第17期生 28名 ・審査委員 10名

(4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在、または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、「特別賞」及び「優秀賞」を贈呈予定であったが、2022年度は該当者なし。

2. 表彰事業（スポーツチャレンジ賞）

スポーツの普及・振興に功績をあげ、将来、更なる貢献が期待される個人・団体を表彰するとともに、チャレンジスピリットあふれる受賞者の足跡やその実像を通じて、挑戦(チャレンジ)すること尊さや大切さを社会に伝播することを目的としています。表彰対象者のイメージは、チャレンジ支援(事業)の趣旨を踏まえ、未来志向を鮮明にした表彰制度として、「縁の下の力持ち」的な個人・団体と捉え、報道機関、スポーツ競技団体、大学等からの候補者情報、又は推薦を募り、2回の審査委員会審議を経て表彰対象者を決定します。

<本賞の概要>

スポーツ チャレンジ賞	日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」の功績を称えるとともに、受賞者の更なるチャレンジと活躍を期待・奨励する表彰制度
対象者	スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、献身的な活動で縁の下から支えた人物・団体
後 援	(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会 (公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

候補者募集	2021 年 9 月 15 日(水)～10 月 31 日(日)
選考委員会	第 1 回 2021 年 12 月 4 日(土) 日本青年館ホテル(リモート開催) 第 2 回 2022 年 1 月 22 日(土) 日本青年館ホテル(ハイブリット開催) 23 日(日) 日本青年館ホテル(ハイブリット開催)
贈呈式	・伊藤 裕子氏 5 月 30 日(月) ヤマハ発動機㈱ コミュニケーションプラザ応接室 ・山下 良美氏 6 月 24 日(金) ヤマハ発動機㈱ 東京事務所応接室
スポーツ チャレンジ賞	【功労賞】伊藤 裕子 氏 (スイミングコーチ) 「障害がある子ども向けスイミングスクールでだれもが楽しく学べる機会を提供」 【奨励賞】山下 良美 氏 (サッカー1級審判員・女子国際主審) 「女子国際主審・サッカー1級審判員として国内外の試合で主審担当 スポーツ界における女性活躍を牽引」
情報公開	・贈呈式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介

<2022 年度(第 15 回) スポーツチャレンジ賞受賞者の表彰>

候補者募集	2022 年 7 月 1 日(金)～9 月 30 日(金)
選考委員会	第 1 回 2022 年 12 月 3 日(土) 遠鉄百貨店会議室(リモート開催) 第 2 回 2023 年 1 月 23 日(土) 日本青年館ホテル 24 日(日) 日本青年館ホテル
贈呈式	2023 年 6 月 2 日(金) 御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンター(予定)
スポーツ チャレンジ賞	能瀬 さやか 氏 (東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科 産婦人科医) 「女性アスリートの“現在・未来の健康”を守る ～ ゼロからのチャレンジ ～ 」
情報公開	・贈呈式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載(予定) ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介(予定)

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動などに関する情報をホームページなどを通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行などでの広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告など) ・第 16 期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介 ・第 14 回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介 (BACK STORIES)
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定など計 4 件
刊行物	・YMFS 通信 毎月配信 (配信先 約 700 か所) ・2021 年度年間事業報告書 Yearly Digest 700 部

◆スポーツ体験促進事業（公2）

社会や家庭生活における環境の変化などにより、子どもたちの体力・運動能力の低下や、水辺・自然体験の機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や水辺・自然体験機会の創出をめざしています。

本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野で各種体験機会を提供しています。

1. 各種体験事業

(1) ジュニアヨットスクール葉山（セーリング体験）

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型（4月から翌年3月）のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や、個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けと、これに沿ったカリキュラムにより、原則、月2回から3回の通常講習を行なっています。

セーリング指導、強化練習、水辺活動・安全対策等に加えて、近年の取組みとして、逞しい心や競う力も養うことを目的に、葉山スクール周辺で開催される大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点でのプログラムを実施しています。2022年度は24名のスクール生を対象に実施しました。

<指導方針>

- ① 年度初めの段階で、1年間の目標を設定し、PDCAに基づく指導
- ② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
- ③ 逞しい心や競う力を養う目的から、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加
- ④ 夏季には集中的に取り組む強化練習の実施
- ⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた、より総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育
- ⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年2回開催

<スクール講習クラス>

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① ベーシッククラス(入会初年度) | 毎月2回(年間24回) |
| ② マスタークラス | ↑ |
| ③ エキスパートクラス | ↑ |
| ④ クラブ(高校生) | ↑ |

<コロナ禍での2022年度のスクール活動>

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、第7波が蔓延する期間もありましたが、スクール活動においては、感染対策をとりながら、また指導者、保護者、スクール生の協力を得ながら、スクールの全活動を3年振りに実施することが出来ました。

<コロナ禍における対応指針>

- ① ハーバー内での活動時間を短縮し出来るだけ他の利用者との過密状態を回避し、接触を低減するため、参加対象者を2グループに分けて開催。
- ② 自宅出発前までに検温を実施し、指導者代表に報告する。また、以下の場合には参加を見合わせる。

- ・ 体調不良(37.0 度以上の発熱、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常等)の場合
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染者及び感染が疑われる人がいる場合
- ③ 陸上(マリーナ施設内)におけるマスクの常時着用の徹底。
 - ④ 人との会話は 1m 以上の距離を取って行う。
 - ⑤ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を徹底する。
 - ⑥ 更衣室の利用は、周囲の利用者と距離をとってできるだけ短時間で利用する。
 - ⑦ タオルやウェア、備品・艀装品等の貸し借り、使いまわしは行わない。
 - ⑧ 全体ミーティングは行わず、グループ毎に屋外で行う。
 - ⑨ 感染した際は、スクール事務局に速やかに連絡する。

<通常講習以外の主な活動>

実施内容		日程	場所
<2022 年>			
1	ミキハウスカップ東京 2022	4 名参加 5 月 29 日	葉山新港
2	安全講習会	26 名参加 7 月 17 日	葉山新港、森戸海岸
3	東日本 OP 選手権	6 名参加 8 月 26～27 日	葉山新港
4	2022 全日本レーザー選手権	2 名参加 11 月 18～20 日	江の島ヨットハーバー
5	2022 クリスマス会	16 名参加 12 月 18 日	葉山マリーナ
<2023 年>			
6	安全祈願(初詣)	11 名参加 1 月 8 日	森戸神社
7	避難訓練(地震・津波対策)	17 名参加 2 月 19 日	葉山マリーナ
8	第 31 回セーリング・チャレンジカップ	8 名参加 3 月 19 日～21 日	浜名湖 三ヶ日青年の家


(2)セーリング競技会(セーリング競技体験)

<セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖>

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や技術向上に資することを目的に、年度末に開催しました。

<第 31 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要 >

開催日時	2023 年 3 月 19 日(日)～21 日(祝)(3 日間)
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
主催	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団
公認団体	(公財)日本セーリング連盟(承認番号 2022-52)
運営協力	(特非)静岡県セーリング連盟
助成	(独法)日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC 助成金交付確定金額 3,374,000 円 当該助成金は、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員等への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用しました。

	 <p>第31回「セーリング・チャレンジカップIN浜名湖」は、 スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。</p>
協 賛	ヤマハ(株)、(株)ワイズギア、(株)ノースセールジャパン、 パフォーマンスセイルクラブトジャパン(株)
後 援	スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、 (公財)静岡県スポーツ協会、浜松市、浜松市教育委員会、(公財)浜松市スポー ツ協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、(一社)日本オブ ティミストディンギー協会、(一社)日本レーザークラス協会、日本420協会、
協 力	静岡県立三ヶ日青年の家
競技種目	・1人乗り:ILCA4(4.7級)、ILCA6(ラジアル級)、OP級(初級・上級) ・2人乗り:420級 (注)ILCA4(4.7級)、ILCA6(ラジアル級)は、2023年ユースランキング対象大会
実施概要	参加団体数・・・18団体 参加人数・・・70名 参加艇数・・・66艇 ・1人乗り:ILC4(4.7級)18艇、ILC6(ラジアル級)19艇、OP初級 5艇、上級20艇 ・2人乗り:420級 4艇

(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)

本事業は、子どもたちの水辺体験や自然体験の促進が社会的な課題となっている中で、幼児・児童を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得たさまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

このコンテストは、水辺の絵を描くことを一つのきっかけとし、実際に海や川など水辺や自然の中での実体験を促す趣旨から体験事業に位置付けて運営しています。

<第34回全国児童 水辺の風景画コンテストの概要>

募集期間	2022年6月27日(月)～9月16日(金)
対 象	幼児、小学生
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知
協 賛	三井住友海上火災保険(株)、マルマン(株)、(株)ワイズギア
後 援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(特非)ジャパンゲームフィッシュ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会:10月11日(火)、12日(水) 最終審査会 :10月25日(火)
受賞者発表	11月8日(火)
表 彰	入賞作品 23点 最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、

	日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパングームフィッシュ協会会長賞、 国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会 長賞、ヤマハ発動機賞、YMFS特別賞 優秀賞：金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入選作品 306 点 (秀作 127 点、佳作 179 点)
応募状況	作品数:16,930 点 (前年度 18,507 点) 団体数:850 団体 (前年度 1,047 団体)

<審査会の開催>

審査会	内 容	日 程	会 場	審査員
予選会	専門家(画家)による審査を行 い、入選作品決定	10月11日(火) 12日(水)	ヤマハ発動機(株) コミュニケーションプラザ	2名
最終審査会	専門家、後援省庁・団体代表者 による審査で入賞作品決定	10月25日(火)	御茶ノ水ソラシティ	14名

<各大臣賞表彰式>

※コンテスト入賞者の詳細は別紙掲載

賞 名	日 程	開催会場	受賞者／贈呈者
文部科学大臣賞	12月8日(木)	影美会アートアカデミー 麻布校	受賞者:阪口 楓奈さん(年長) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
国土交通大臣賞	12月13日(火)	愛知県半田市 つばさ幼稚園	受賞者:村井 里帆さん(年長) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
環境大臣賞	12月9日(金)	和泉市立国府小学校	受賞者:大谷 奈千佳さん(4年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
農林水産大臣賞	12月7日(水)	岡垣町立海老津小学校	受賞者:吉田 七海さん(3年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)

<入賞作品の紹介>

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	「ジャパンインターナショナルボートショー2023」会場での展示公開 2023年3月23日(木)～3月26日(日)パシフィコ横浜会場

(4)教材の提供 (体験活動に必要な教材の提供)

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子ども
の増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニ
アスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。教材提供先には、活用報告書の
提出を求め、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

<2022 年度「スポーツ教材の提供」の概要>

募集期間	2022 年 2 月 23 日(水)～4 月 18 日(月)
活用対象	幼児から中学生 (タグラグビーセットは小学生以下)
提供先団体	「子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになる取組み」を計画している団体(保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、児童養護施設、児童クラブ、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに取り組む団体)
教材内容	① ボッチャボールセット ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

<申請状況および抽選結果> ※スポーツ教材提供先詳細は別紙掲載

申請数	663 団体(前年度 772 団体)
抽選会	4 月 28 日(木) (公財)日本スポーツ協会 泉正文 副会長による抽選
抽選結果	120 団体(前年度 120 団体)

(5) 体験型スポーツ教室/イベント

近年の社会や家庭など生活環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺での活動する機会や、運動機会が減少していると言われていた中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に体験機会を提供しています。

・「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」 チャレンジ！ユニ★スポ

ユニバーサル・スポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加者誰もが楽しめ交流できるスポーツです。

スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、静岡県下 11 の小中学校で体験授業「チャレンジ！ユニ★スポ」を開催し、児童、教員 719 名が楽しく体験しました。

また、開催校の協力を得て参加児童にアンケート調査を実施(体験前、後、数か月後、1年後)。子どもたちの障害や障害者スポーツ等に関する意識や視点がどのように変化するかを確認し調査報告書を発行しました。

<ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会開催実績>

回	日 程	学 校 名	参 加 者 数		
			児童生徒	教員	合計
1	6 月 28 日(火)	焼津市立小川中学校	114	10	124
2	6 月 30 日(木)	牧之原市立地頭方小学校	32	5	37
3	7 月 1 日(金)	静岡市立梅ヶ島小学校	12	8	20
4	7 月 7 日(木)	東伊豆町立稲取小学校	24	2	26
5	7 月 14 日(木)	静岡市立蒲原東小学校	43	2	45
6	7 月 19 日(火)	静岡市立由比北小学校	32	5	37
7	9 月 7 日(水)	浜松市立都田南小学校	122	8	130
8	9 月 15 日(木)	森町立森中学校	57	3	60

9	10月4日(火)	浜松市立浅間小学校	85	4	89
10	10月6日(木)	浜松市立和地小学校	111	5	116
11	11月7日(月)	松崎町立松崎小学校	31	4	35
合 計			663	56	719

2. 調査研究

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与する為、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

(1) 障害者スポーツプロジェクト

11年目となる障害者スポーツ分野では、① 障害者スポーツ選手のキャリア調査、② テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査、③ パラリンピアンに対する社会的認知度調査、④ テレビコマーシャルによる障害者スポーツ情報発信環境調査、⑤ ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査を実施し、それらの結果を調査報告書として発行しました。また、8月に記者説明会「障害者スポーツを取り巻く環境について」を開催しました。

・報告書の発行

2023年3月に報告書を発行、Webサイトに掲載

・報告書タイトル

「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」

～選手のキャリア、TV放送、選手認知度、テレビCF放送、ユニ★スポ体験の効果に着目して～

・報告書の概要

【第1章】障害者スポーツ選手のキャリア調査

障害者スポーツ・トップアスリートたちのスポーツを始めるに至った経緯や活動状況をヒアリング

【第2章】テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

北京2022パラリンピック大会前後での、障害者スポーツのテレビでの露出状況を調査

【第3章】パラリンピアンに対する社会的認知度調査

北京2022パラリンピック大会開催後のパラリンピアンに対する社会的認知度を調査

【第4章】テレビコマーシャルによる障害者スポーツ情報発信環境調査

障害者スポーツ関連やパラアスリート起用のテレビコマーシャルの実態を調査。

【第5章】ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査

ボッチャ体験会を通して、子供たちの障害や障害者スポーツに対する意識変化を調査。

(2) 記者説明会の開催

障害者スポーツの環境変化について、北京2022パラリンピック大会を含めたテレビメディア報道状況、パラリンピアン認知度、障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル制作状況の調査結果より、報道関係者向け説明会を開催しました。

記者説明会：「障害者スポーツを取り巻く環境について」

・開催日時：2022年8月8日(月) 17:00～18:00

- ・開催方式 : 会場およびオンラインの併催
- ・参加者数 : 11 名
- ・発表者 : 小淵 和也氏 ((公財) 笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 政策ディレクター)
- ・全体統括 : 藤田 紀昭氏 (日本福祉大学 スポーツ科学部 学部長 教授)

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動などに関する情報をホームページなどを通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行などでの広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	主な掲載内容 <ul style="list-style-type: none"> ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告など) ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第34回全国児童 水辺の風景画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報など
ニュースリリース	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教材の提供募集、対象者決定など計7件
刊行物	<ul style="list-style-type: none"> ・YMFS 通信 毎月配信 (配信先 約700か所) ・2021年度年間事業報告書 Yearly Digest 700部 ・2022年度障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究 2,000部

【事務報告】

1. 理事会・評議員選定委員会・評議員会

<理事会>

回	開催日時・会場	議 事
1	2022年 5月30日(月) 丸の内マイプラザ 4F 会議室	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 2021年度事業報告承認の件(承認可決)</p> <p>第2号議案 2021年度計算書類等承認の件(承認可決)</p> <p>第3号議案 内閣府への事業変更認定申請の件(承認可決)</p> <p>第4号議案 定款変更(案)承認の件(承認可決)</p> <p>第5号議案 定時評議員会招集の件(承認可決)</p> <p>第6号議案 評議員候補者推薦の件(承認可決)</p> <p>第7号議案 表彰規程改正の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告 ・その他
2	2022年 10月21日(金) 丸の内マイプラザ 4F 会議室	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 内閣府への変更認定申請に伴う事業計画及び 収支予算承認の件(承認可決)</p> <p>第2号議案 個人情報保護方針及び規程改正の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度上半期事業概況及び下半期事業活動報告 ・2022年度中間決算及び収支見通し報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告 ・その他
3	2023年 3月3日(金) 丸の内マイプラザ 4F 会議室	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 2023年度事業計画承認の件(承認可決)</p> <p>第2号議案 2023年度収支予算承認の件(承認可決)</p> <p>第3号議案 2023年度資金調達及び設備投資の見込み承認の件 (承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度事業概況報告 ・2022年度収支見通報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告 ・その他

<評議員選定委員会>

回	開催日時・会場	議 事
	2022年 6月17日(金) 丸の内マイプラザ 4F 会議室	<p><評議員選任の件></p> <p>(辞任) 山田 登志夫</p> <p>(新任) 藤原 正樹</p>

<評議員会>

回	開催日時・会場	議 事
定 時	2022年6月17日(金) 丸の内マイプラザ 4F 会議室	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 2021年度計算書類等承認の件(承認可決)</p> <p>第2号議案 定款変更の件(承認可決)</p> <p>第3号議案 理事選任の件(承認可決)</p> <p>第4号議案 代表理事、業務執行理事選定の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度事業報告、2022年度事業計画報告 ・評議員選定委員会に於ける評議員選任の報告 ・その他